岷江入楚

若竺

十五

特別
へ 12
4604
4

A 12
4804
4

宮内省図書寮

右紫

十七歳　十月叙三位兼中将

源氏君瘧病事

三月廿日為加持向北山聖坊事

遊山之次臨望某僧都之姉尼六隠居所事

御供人々物語諸國名所之次申出明石入道女有様事

小柴垣之間見々次見十歳許女子給事　世之人々尼君の外祖母

僧都未告源氏君渡事　於姉尼公事

僧都奉請源氏於紙坊事

仍加語尼上并姫君有様事

日時源氏対面尼公之次々姫君之給事

明日北山聖奉加持并仍加持を給事

聖人奉独鈷仍加持を給事

源氏君消息於尼公許事

頭中将尼乃并以下来御迎事

仍紙坊を給事

仍琴源氏彈給事

小汀文庫

48 3673

源氏君帰京向参之宿所
又之日遣書小山殿之行
二三日後又老惟之於北山祖寺ノ納之毎
藤童宮煩病退出
源氏場ニ今姫巻過
藤童ノ女御姫姫
あつまうかたいとあるれなる三月
さくらのさかりいつれ宮ものもとうく
此姫姫ハ四月ものなること
源氏見参ノ人原本藤童
秋七月後童参内
九月比源氏過六条京極
然姫君ハ和琴ノ四
十月朱雀院行幸
小山殿卒去
右九月サクラ

源氏宿小野之京極家
習琴ノ所於伺ノ路使隨ノ祝姫ノ用
老惟之於京極家
源氏萱草和琴
源氏自出迎取
ノ納言乳母同乗面
姫君手習ノ次

○若葉　八寸五巻名

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十七歌の[illegible]

[illegible]

瘧病　疾ミ　俗ニ　殺ミ　瘧疾　二日ニ一度発ル

瘴瘧　寒熱ヲ　寒熱ヲ　毎日ヨヤミと日ヲ隔てとりまぜと

傷日瘧トモ

第七

疝　古墓初通作痼　久病ヲ　十日小児口生瘡通作病

第八

夕負巻　[illegible]

花 すぐれ厳術さ侍るのゆゑ杜子春の手提髑髏血
とゝゐるを備て虎に行つゝしり狂特ハ真言教の陀羅尼
のゝ

秘 花杜子春詩 手提血ト云ル詩ニテモ虎ハ為ルヿ
ハ五言句ニ似ル也 杜子春の花卿歌 髑髏血
模糊 手提擲還崔大夫ト云句ニ有 ハ羽ノ文ニ有
なれ厳術ニ人
なれ厳術ニ人
なるを云ハ
云ハ
ものゝ

笑 杜子春花卿歌云 子璋髑髏血模糊 手提擲還崔大夫 梓州
副使段子璋反以兵攻東川 節度李奮敗北於昌之 劍南節度崔
光遠率其所將花敬定討之 子璋既誅敬定恃功大掠 甫來同
之怒由是不見擢用 公作花卿歌 蓋痛惜之也
詩ノ心ニ首ヲ斬スト云ハカリヲ事ヲシめしを
手提擲還崔大夫 此点ヲ見へし

秘 手提擲還崔大夫 心華ノ点ニ 江雪 此点相不合ニ
山白古今 虎の ハ
ものゝ
作ルヿの虎 ハ
夜深 戦場 寒月照白骨 此句ニ 幻ヲ
きる山ヲ

行 笑 北山 白南山ヲ
行 笑 北山寺 敏馬寺 昔四十九院 仏法興隆
行 笑 院
山の
つ

敏馬寺事
旧記云 治ル大浦 為原伊勢人 桓武天皇御宇造東寺 行事同 取 旁
用馬 於鴨河原 敬失尋 跡行 答 北山奉祭 異沙門 天始建三 此寺
笑 水鏡云 延暦十六年 為原 行 人 平 秘
笑 系 局のあれ人

[illegible]

秘笑秘世[illegible]

人[illegible]

笑上の句[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘笑[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘笑 韓国寺昔四十九院之処仏性院

[illegible]

佛弟子須菩提住西天石窟 笑

吳花云陳思王遊蓬山忽聞岩裏有誦經声清遠寥亮使解音者一安之為神仙之声道士効之作歩虚寒山詩余家有一窟

々中無一物

秘 [illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

[

この二十七　伺笑　二十禁足のうちまうこと
ん　源の伺侯　ものの
あまりつかうまつりさしこえ
笑和源氏の君のうしろめたくわたり給ふ御あまりの
侍従のきこえしらせ給ふ　くらもちの
笑曰　うるさきことなりて　物つつみとくきこえつることやう
きこえわたり給ふ　弁侍従の
女ども　や　和笑　居たる
あるべきつつ　風伽
風伽い　梵語　仏名　ひとつ
陽乳のもとに　設　常　ニ　井花水　といふ
花　水　笑　時　花　水　の
ことに　笑　源の侍
おのづから　居たる
侍りてのち　光　侍
あるべきことなり

たいあるうるし　源之　合頭　れた　海
日　ことの　和　侍　ことに　乃
ことの　門　和　侍　後　侍　日　菜　映　宮　南　長　谷　雄
和　源の　侍　侍　ことに　ん　雄
かく　ん　和　源の　伺
れ　いと　わ　ん　和　ん　伺　ん　伺
和　呂　雄　ことに　和　ん　れ
人の　國　笑　他
和　伺　他　笑　初　ん　ん　侍　ん　人の　ん
侍　ん　ん　ん　侍　ん　ん　ん

列て海内の宝とすべきなり　富士信濃と対して
筑紫なる海内宝　河内大峯天竺山　船弁慶の事
[illegible]　山川意所に任せ　第四
筑紫法の父に前摂政　摂津の国　[illegible]
私に又小の宝　[illegible]
[illegible]　花元より義経
[illegible]　[illegible]
[illegible]　私に任せ　[illegible]
筑紫須磨明石の海岸　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
或は[illegible]　[illegible]　第五日
私に何の[illegible]　[illegible]
何を面白[illegible]
[illegible]
[illegible]　筑紫　摂津と前日に明石入道事

[illegible]　[illegible]　新教[illegible]
[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　

近衛中将任国例

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
の位をもとめしかんとうすしあれとうけいうあこ
紙方のこいはふ 秘 入道の物がたりつかうまつる
まの人のもの 秘 けしきもとめをそこをいたりてふけしと
たりふ海にとまり 秘 笑 入道殿のつとをうりてまをとと
おそとたりのおそこと
見れとたれそのんこととけて 入道殿の位をそん
[illegible]
おりはをいりをせ 入道のてをのもとをとしし
そのおりをいはをいはよ入あるわ
ゆいんひをそそ 見こ入道の孫をてのきてをわれ
平氏入道のるこ四のいちあとしをとふる
[illegible]
人をこいはをうのの后こ
秘 笑 只海よ入れとりて我をのもとをとりあをそいを

[illegible]
秘 こいはをいはをいはを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

幼年なりしかども一門に相交りて
[illegible]の[illegible]の妹なりし
[illegible]
中[illegible]
けるとぞ　胸息
いとふかくなりぬ　第[illegible]
[illegible]
十[illegible]
白[illegible]
[illegible]
[illegible]

秘 涅槃経云 金剛身 特載比丘比丘尼不得畜養
奴婢牛羊非法之物
秘 ことやとして
秘 ことやとしてはいかゝるハはつ
秘 ことやとしてはつる
秘 ことやとしてはつるものとも
秘 ことやとしてはつるものとも
秘 ことやとしてはつるものとも

[illegible]

雅草　日本[illegible]

[illegible]

[illegible]

又[illegible]

[illegible]

[illegible]

第日[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天台大師の御忌日に恵亮信正所をする千信贖一心七
草座草莚四帖

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世のうきなかるこの世の常なることを
和 原よ世の常なることを
対して世の常のけ世を演伝する伝教
わうけのかと すれそこ原のん世なれ
あらうるに すれもこれ友つりのあること
私ら只わうつるのほ[illegible]ゆうるこれ友達のあるこ
もりてほの世 いけうるこの果う感して原世の苑にもりてかく
つまりす現世の苦しうの果う感して原世の苑にもりてかく
苦うるこ[illegible]こと 私原のもりて我身のうちこいのこ
うる伝教と 原の山伝教をもしくこうるこ
りうの面うも 私のうるこ阿のまし嘗
出るものの知い苦しうの原の世のけと伝教とうの面
秘 原の面を嘗を人うるうるうるうるこ
嘗をうるのこうるこうるこ

名者のうこ
[illegible]名者として牛乃梅櫃すと云名者
[illegible]牛乃梅櫃
平 叶阿伝教の羽黒勝 秘同
[illegible]

[illegible]

[illegible]

なく成て十年程すぎたりしとき兄弟の母と兄弟の小分
五大納言　　掃部之
由ありて掃部　其の母父掃部に問ふ
うつくしみ　一度こそ
とぶらひのい　なり由へ
兄弟の又言　掃部の
りれ小方　掃部
賢夏の小方なりの母　其
なくなりぬ　其の母
物ふるやもいつく　平
信孝の何事ありけ師の
さふのこ　原の人屋の
みこの院ちふく　兄弟
ちて信孝ふるとちふ　原の
人のかく人うちとえん　いと原ろん

けりしとんふく　河進人　同じ所行んもなりこと
人のまちよ　原とちわちつてそこちとちあり
いとあれは　これわ原の何
れいとちのつうこ
すちちをくうこのよ行ものれ
私云　其のまれ行ちすすつくなく所屋のもちす
子いけまちとのれ　其とち子　大ち　おのへとりわつちんち四郎
なく成何　信孝の何　如る　一人伺ちと
ちれしなちく　屋とも　なる　人おわ
母　のふく成　れしれ
うちちつなく　屋とけ
私ちりとい　其のまつ屋のむとのまと行る
四のとい　ちつより　の来屋のくけちま
行ちと行ちま　原のんふ　ちふ原ちとけりわと
あわちて弥治　ちしふ
あやしちあると　信孝　ちるれとなく

あけくれいろ初めて　湯の句　四信徒よりのぬ
こつんありてと語きりてけりとけりずたりてうんとけりてけりこ
ちらうけるふ　四　未文　あるこ　同古　未面白
山姫　花　七さきうるれば　松茶　ちやつぬのうるるこ
て　結ぶやしのんとんと　見とうの　名ふりいたうをなとのうるん
ここうしくらてのれ　芋　このいまうけうれ　ふつれのとく
男女のうれふうるこ　ふうるこ　ふうるこ　ふうるこ　ふうるこ
いとうれうるき　四　信徒の句
まうこけよ　三下　四　花　三　ふうるこ　ふうるこ　ふうるこ　ふうるこ　ふうるこ　ふうるこ
うして　柳　あるいるうるうるこ　ふうるこ　ふうるこ　柳の字　ふるか
ふるうるこ　四　いまう　信徒の句
女人い　信徒の句うるうるうる
うるのれうるれいるうるれうるれうるれ

扇をなり　　源の臭へ物のかんとて
おたまをすこしもちまゐれと　とうをあ四分なれとも
きこえあやうわやうて四こひをわるあるあもわるまて
しあやうやうく少納言の君あらり出るさまへと月と
さらゆへとそへいう年うわやうてまこりうこ考えこ面
すうこりうこみ　年は四月つい面白し用ん
仏のれしうへいくくきうよ入たて
徒冥入於冥宗不聞仏名　清原の宣雅
らうそこうい　少納言のめん源をとうこ
いるるれるの　少納言の君四月ばかり
けうこうもすり　源の君四月ばかり
源のうのあ年れをうこ張りの神しなりうの
思こうしあり　私云ふのうこ不ふあのこれ
をほのうこうこりしあ神なりうこ所めつう
こきこうれてんや　つうこうこうれんうの
けうこうやうの　少納言の日

ものりわうこ　わうこつ
あしれあさはいこうめうりうこ
信仏と大こい物ばかりいこ
ばかれてあり少のりいこ　信仏の大こうこ
なつうこうやわて　四源の羽
源のうこのあいこりわうこうのとか納言のうこ
いうこきこ　こ源のうこ
あるはうり　尼云の羽
らげいうこ紅よ　ちとおこ
けうこうこのあ年れ　四
源氏云の小紫色のうつ　四紅梅のうこ
うこうのあ年ロこうこ
紅梅とこうこうこのあ
ものこうこ
ものこうこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白氏草堂記云雜木異草蓋覆其上綠陰蒙蒙朱實
離離不識其名四時一色

[illegible]

護身
[illegible]
懷刀法五[illegible]
一淨三業
一佛[illegible]三昧耶
一蓮花アー
一金剛アー
一被甲護身

功コウハ讃音クヨウハ異音ヒ
私云薫修ノ功ツリ[illegible]

陀羅尼ハ梵語ニ陀羅尼ト漢字ニ[illegible]ト云

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新云鈔曇鉢華齷荅瑞應金輪王出ヲ海水減少金
輪路現世花乃至作金輪王之先兆
案之優曇花ハ輪王出世ノ瑞ト故号霊瑞花人寿八万歳
時金輪王遠四州其時海水半減ルヨリテ花世
現ストモ先ヲ久源氏ヲ行ヒ羽ヲ以テ一切ノ人
優曇花ヨ源氏ヲ比ス

[illegible]

源乃さはり

阿あるて一ていなく　源の句

平　なの伝教の今ハ輪王出世のかとりて源よりてとて源の県
よの四つて仏世よりてうとりとき
一條御伝ハ仏家なり　なの今ハうけて若ハ
源の初分を見下しての仏のとよりての仏

[illegible]

平　[illegible]

[illegible]

[illegible]

中よ金珠玉三連とをこそ中よ金剛子金珠一
連有り又仏ちの御記ふみそちこと
御仏りしゆゑと申ける
ちちちち　百済國こ　イかつてくとと
えうこしのず
百済ゆちち金剛子ちちつちちゆい元真寺貫賊帳光
云元多地子金剛子此ホ百済ホ王妃ホ位取位大る
の取殊の御記いいもちちちく
ちちち

[illegible]

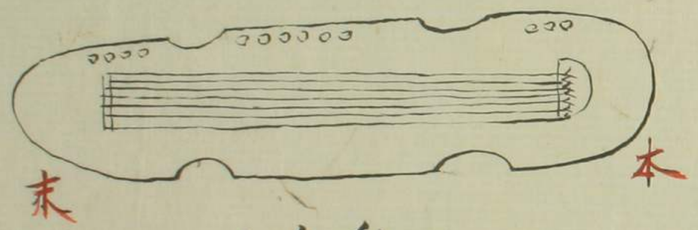
[illegible]

[illegible]

此器曲上古渡来本朝之奈勿倫之先恭天武以下令保存せ
見日本紀云後世所傳之人在之中古以来
楽曲断絶之比山家よしてれ坊当家之又白虎通云琴之禁
禁追於祈氣以正人心之心くらうの所氏とつ
ふといへりうの詞ゆ此琴のもとをたれる後世
より伝弾琴とあるもとするかしらんと

壹変ハ四辺変
大絃三変の説
のゆへ今之説と
如川

琴圖



長三尺六寸（一三尺六寸六分ニ）
七絃
黒漆楽器也

私云此量取詮なりと以
近代不見及の物ゆえ
以或本写之

琴書曰師曠晋之樂官也工於琴能易寒暑召風雨晉
平公數之感玄鶴六下舞而鳴 孤巴鼓琴琴動魚躍而遊矣 列子

[illegible]

源のいたりたるもあれども奏上の句

くらひのいたりつれいたりいつの句

業後撰恋六あさりの御下女こうりけるを女

[illegible]

[illegible]

[illegible]

業曰 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

業をまきの一ぞく曲なりこと 俊上をもれ所にまつる

[illegible]

人のゆ仰をうけて源の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又の日つかさ　小山の文

[illegible]

源　面影の[illegible]

行留うし　越上わ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
笑曰[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
源は西ごとに又命をうばはれ[illegible]
又いるるにて すべりつのぶ友童しるやこれ又源[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
源の病悩をいかにせんとおもひ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

弁ノ内ヨリ
出ス
四乳母ノ弁
食婦トモム
ツ
利ヲ
用ル

弁ノ内ヨリ出ス食婦トの二人と又内ノ弁と弁
食婦と白をきそれ弁食婦二人の名
二人の名 河内守ノ内ノ弁 青表紙ノ弁
食婦ども 食婦ども 他二人ノ名
ハ侍と食婦と 紙ノ食婦ハ主食婦ノ名 河内守
白まきて 二人の名 表紙ノ弁 食婦 道
二人の名 第日 紙ノ食婦ハ 食婦 二人
戸 食婦ハ 食婦ハ 弁ノ名
私ハ 食婦 弁の名 二人
弁の名を二人 紙ノ食婦 食
内ノ内の名 他人
ハ 食婦
弁の名

みな人々 皆人々 ふる
ひ 四の内ノ 童
中ノ内の 侍
さは 侍 侍
毛詩文選 巻第四
侍 侍 侍 四月
笑さは
侍 侍
第日 食婦
食婦 食婦 食婦

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆとりあるやうにて　ゆとりあるやうにて　ゆとりあるやうにて　ゆとりあるやうにて　ゆとりあるやうにて

第四　ゆとりあるやうにて　ゆとりあるやうにて　ゆとりあるやうにて　ゆとりあるやうにて　ゆとりあるやうにて

けはいよりあるいはいよりあるいはいよりあるい

行ゐあさ　ほの月

尼ぜ[illegible]

笠の[illegible]　すもおせ[illegible]

[illegible]　尼ぜの笠[illegible]ほの[illegible]

[illegible]

すも尼ぜの[illegible]　笠の月

[illegible]　笠の[illegible]

[illegible]　笠の月　尼ぜ[illegible]

[illegible]　小山[illegible]

[illegible]　笠の月

[illegible]

[illegible]　尼ぜの[illegible]

[illegible]　ほの[illegible]

[illegible]

[illegible]

少納言きこえたり　心か納言の世界をもとる
と云あるべしつい　世か納言の位に居たいかしらんと
思ひわたるとあり　源のかんの
秋の夕いとしらく　中花童の扇をあらそふ　春宮秋
七夕男は陽に陽ゆえ　花童は花童の
うつくしあり　秋は花童　花童は花童の
秋は月にうつくしき花童　二人のわらひ　つとくらふ源の中
わかるゆゑ　世をのりと　花童は紫上の
きこえ　源のかんは　花童の
世は月にうつくしき　秋は月にうつくしき
の方と　花童のうつくしき時の
月にはやさん　世源は　月にうつくしき
花童はやさん　世は　月にうつくしき
源は　月にうつくしき　花童の
月にうつくしいやうの　乃美
世は　花童の姫姫　世の

世は　花童の如御のゆり
とりて　世の　世の
世は　世の　世の
世は　世の　世の
世は

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとなりたる事の故なり　心はせの高くなり
すべて世間の賤しからぬ人は服に百文ばかり
かけるものなり　はせの方へ源のおりゝる
行ゝ　源の心
はせ　南のかしけるし
はあるとき源の中　屋にて
御所ゝ　源の所へ
あるとき　はせ　かはせて頃はせの父　屋の乃
の所へ　ゝ
こゝろ
心はせとの母君父宮へ　縁ゝ
屋にの所へ　和はせの母君　屋の父
小方ゝ　ゝ　はせ
外の源へ　ゝ　はせ和
文乃小方ゝ
いとゝ

心一向二歳三歳の時ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　はせの十
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
和　京国よりはせの女行ゝ
人ゝ　ゝ
第四　第四はせ三人ゝ
小方ゝ　いとゝ
すさ　屋ゝ
ゝ　小方の
かゝ　源の作
なゝ
のち　ゝ
源の
ゝ　ゝ
ゝ　はせ十

いまる仏名の日を仏名の
ものあり必ずの御ものの
仏へ奉るなり　奥の仏様を
御ものの御ものの
御ものの御ものの
御ものの御ものの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

係

[illegible]

妹し門住る奥にあり 孤丸文集をあひ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

必かゆてはし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]作しもの東調と云秘曲なり吉陰亭風伝の秘中
[illegible]首のことく東調[illegible]
[illegible]
和琴は昔撥片撥[illegible]神楽[illegible]
五柏[illegible]三柏[illegible]
[illegible]楽曲[illegible]
一説[illegible]
[illegible]古来[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

河銚廷　はること[illegible]母の服をもちゐる

一位尼[illegible]少色の紅袴の服中

なれば[illegible]紅をもちゐる[illegible]

今案孔雀[illegible]　孔雀[illegible]　多拉の服三ヶ月とみて

[illegible]　例此[illegible]と

きこゆ[illegible]

[illegible]のすゑのまなこ[illegible]

位とのの服[illegible]

[illegible]

[illegible]

なを姉[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

母君はわうしいさのかみをうしなひ
給ひしのち、ほうしになりて
すまさうしんの嫉妬なるのまま
或ひとり世をの更衣を
世をのの人は更衣をもろうるを妬
みなどいひもきかず
さやうにあれば又ものいそく
つゝもれば又女しうこうらくあるを所
なるまゝに光もとゝの笠はえいなるく
てゆきりてわうしのと侍のかりを
又さうしんふかまりぬるさうそして行や
やとむりまきりいこれそなりしつゝを
むりをのりて
必むりをのりてふたりとも
却ものの侍よ父子より弟に世とを絶を
ふれいと　更衣のやうにてあるを父子ふれあ
をうれをさゆりをとゆりをとゆりをと